

高品質米生産のための栽培ポイント!!

1 田植え(播種)時期の調整

平坦部では、5月連休植え(4月15日頃までの播種)をすると平年の気象でも7月下旬に出穂してきます。高温にもっとも弱い登熟初期が1年で一番暑い時期と重なり、品質低下の要因となります。地域で水利の調整等を行い、田植えはできるだけ5月15日以降にしましょう。

2 適切な水管理

・活着期(移植直後～移植後7日)

移植後活着するまでは、強風等による障害を防ぐため、5～6cmの深水に管理し、活着を促すために葉面からの蒸散を少なくしましょう。稲の葉先が水面から出ていれば問題はないといわれますが、2葉の葉身が水につからないようにすると、活着が良いでしょう。活着の良否がその後の生育への影響が大きいことから、深水で高水温に保ち、昼夜の温度差を少なくしましょう。

3 施肥量の調整

コシヒカリでは、生育過剰とならないよう、土壌条件に合わせて施肥量を調整しましょう。例年、条間が見通せないほ場や、いもち病の多いところでは、元肥量を加減しましょう。多すぎると、品質低下や倒伏の原因となるので、元肥量を少なくして追肥で調整するほうが安全です。

みえのゆめでは、肥料きれを起こすとごま葉枯病が発生する恐れがありますので、元肥量を多くするか、つなぎ肥を投入しましょう。

○元肥の基準値(例)

〈コシヒカリ〉 (施用量:10a当り)					〈みえのゆめ〉 (施用量:10a当り)				
区分	肥料名	成分	全層	側条	区分	肥料名	成分	全層	側条
元肥	化成肥料10-16-16	10-16-16	25kg	20kg	元肥	化成肥料14-14-14	14-14-14	50kg	40kg
	化成肥料12-18-14	12-18-14	25kg	20kg		堆肥三米	12-14-12	60kg	50kg
	堆肥三米	12-14-12	25kg	20kg	元肥一発	セラコートR2500	25-10-10	—	40kg
元肥一発	セラコートR822	18-12-12	—	35kg					

※堆肥施用田は元肥の施用量を調整して下さい。

〈キヌヒカリ〉 (施用量:10a当り)

区分	肥料名	成分	全層	側条
元肥	化成肥料14-14-14	14-14-14	35kg	30kg
	堆肥三米	12-14-12	40kg	35kg
元肥一発	セラコートR822	18-12-12	—	35kg

■水稲箱施用剤一覧

殺虫殺菌剤	殺虫剤
ツインターボ箱粒剤08	バリアード箱粒剤
ルーチンアドスピノ箱粒剤	
フルスロツトル箱粒剤	
ジャッジ箱粒剤	
デジタルコラトップアクタラ箱粒剤	

○水稲箱施用剤を使用するときは除草剤と間違えないよう注意しましょう!!

水稲箱施用剤と除草剤を区別できる様目印をつけるなどの対策が効果的です!

○水田用除草剤や本田粒剤の散布後7日間は落水やかけ流しをしない!!

水田での除草剤や粒剤を散布した後は、農薬が土壌などに落ち着くまでの7日間は、田面水を圃場外に出さない水管理を徹底してください。

7日間の止水管理は、農薬の効果を十分発揮させるとともに、周辺環境の保全に繋がります。

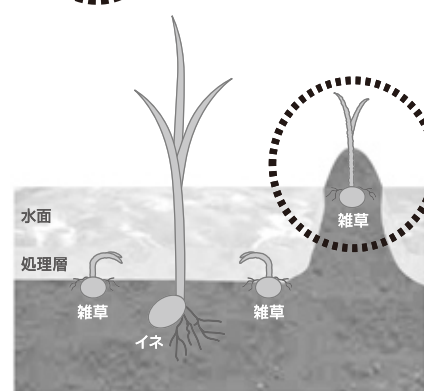
JAからのお知らせ(お願い)

- ・令和4年産米出荷契約書の提出をされていない方は、最寄りの営農経済センター・グリーンショップまですみやかに提出頂きます様お願い致します。

ポイント1

ていねいな代かきは、除草効果を引き出す第一歩!

麦の後作では土が固いため特に注意



●代かきが ていねいでないと…
田んぼが均平にならず、田面が水から出ます。そうすると、薬剤の処理層ができずに草が生えることにつながります。

●砕土が粗いと…
効果ムラが生じます。
●処理層が不均一(効果ムラ)
●間隙(かんげき)から深層に水が流れる

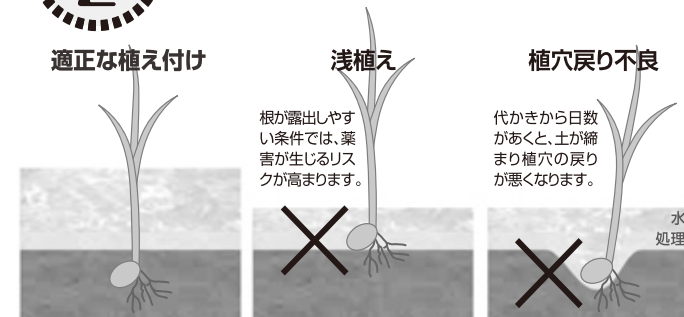
●砕土が細かいと…
薬剤のもつ残効期間がフルに発揮されます。
●処理層が均一になりやすい
●深層浸透を抑える

ていねいな代かきは、均一で安定した処理層をつくります。

田んぼの均平化を心がけましょう。

ポイント2

稲は適正に植え付け、薬害を避けましょう!



- 薬害の起こりやすい条件
- ①砂質土壌・漏水田・植穴の戻りの悪い圃場・軟弱苗の植え付け。
 - ②処理後の高温、未熟有機質の発酵による土壌還元。
 - ③極端な浅植え、浮き苗、浅水管理、入水の遅れ(田植同時)。
 - ④散布後の補植。
 - ⑤散布量、使用適期の間違い。
 - ⑥藻等の発生や浅水条件下での除草剤散布。

夜間の低温や日中の高温が続く場合は、処理を控えてください。代かきから移植までの間隔を短くし、移植深度3cmを確保しましょう。

田植同時処理時の注意

粒剤

- 代かきから田植までの日数は2～4日程度とし、あまり期間をあげないようにしましょう。
- 重複散布、過剰散布とならないように散布装置を適正に設定してください。
- 田植同時処理を行った圃場は、遅くとも翌朝には入水を行ってください(湛水深3～5cm)。
- 田植後7日間は湛水を保ちましょう(田面が露出する場合は水尻が止まっていることを確認し、なるべく静かに入水してください)。
- ◆なお、植え穴の戻りが悪い圃場では、田植同時処理ではなく、移植後活着を確認してから除草剤処理をしましょう。

拡散製剤使用時の注意

豆つぶ・ジャンボなどの

- 田面が露出しないよう湛水深は5～7cmまで入水し、散布するようお願いいたします(豆つぶ、ジャンボ)。
- 除草剤処理後は湛水を保ち、とくに処理後2日間で水位の低下がみられる場合は、ゆっくりと差し水を行い、湛水深を3～5cm程度で4日間は保つようにしてください。
- 藻類や表層はく離などの水面浮遊物が多い場合は、使用を避けてください。

※除草剤散布後、処理層が形成・安定するまで約3日間かかり、この間の急激な入水・落水は効果の低下に直結します。3日間は湛水を保つことを心がけ、7日間の止水管理を守りましょう。